

# 魅力発信！えひめ農業NOW

平成 31 年4月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業振興＞愛媛県農業技術情報サービス  
※2 この動向は、4月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

# 「魅力発信！えひめ農業NOW」（4月分）

## 東予地方局産地戦略推進室

### ■新宮茶を使ったスイーツの開発を推進

- 東予地方局産地戦略推進室と四国中央農業指導班は、地域特産物の販売促進のため、地元農業者および食品加工メーカーと連携し、農産物を利用した新たな加工品の開発を検討。
- 現在、四国中央市新宮の協製茶場と（株）四国シキシマパンとをマッチングさせ、協製茶場の製造する粉末茶を使った、スイーツの開発を進めている。
- 前年度から検討を重ねてきた試作品を、農業者・メーカーら関係者と試食した結果、満足する仕上がりとなった。
- この商品の販売時期は8月～9月の2か月限定で、四国内のスーパーで販売される予定。

### ■西条市の花木苗新規生産者が育苗技術を習得

- 4月19日、新規で花木苗生産に取り組む西条市の生産者とJA周桑指導員が、今治市の花木苗生産者圃場を訪問し、花木の挿し木や鉢上げ、温度と水管理等の技術を学んだ。
- このことは、西条市において花木苗の生産供給体制を整備するため、東予地方局及び今治支局産地戦略推進室の働きかけで実施。
- 両産地戦略推進室は局予算を活用し、東予一円で花木の生産振興を推進するため、産地間での視察研修や技術情報の共有化を図る。



苗生産技術を学ぶ様子

## しまなみ農業指導班

### ■大三島の豪雨災害における樹園地再編整備事業への取組み支援

- しまなみ農業指導班は、東予地方局農村整備課や今治市、JAと連携しながら、昨年7月の豪雨災害で大規模な土砂崩れで樹園地が埋没した上浦町で、農地中間管理機構関連農地整備事業による基盤整備と、担い手への農地集積に向けた取組みを支援している。
- 4月24日に、井口・盛地区の2集落で検討会が開催され、井口地区では地権者の合意形成がほぼ終了したことから、しまなみ農業指導班は、同事業の採択に向け導入する品種や機械・施設などの営農計画作成支援を行い、上浦町の果樹産業と災害からの復興支援に取り組む。



井口地区検討会

## 今治支局産地戦略推進室

### ■ビブナム・ティナス着果安定に向けた取組みを開始

- 今治産地戦略推進室では、局予算「新花材ピットスポラム等生産力強化事業」を活用し、花

木の振興を図っている。

- 現在、今治支局管内で推進している花木ビブルナム・ティナス（青い実の花木）は、開花終了後の4月中旬から5月中旬にかけて生理落果することが問題となっている。
- そこで、着果安定を図るため、ホウ素主体の液肥を、開花前の3月中旬から果実肥大初期の4月末にかけて、合計3回葉面散布を行う技術実証試験に取り組んでいる。
- 6月以降毎月調査を行い、液肥の効果について検証する。



葉面散布の様子

## 中予地方局地域農業育成室

### ■管内農業者が取得したグローバルGAPの更新を支援

- 地域農業育成室は、管内農業者へのGAP推進の一環として農産園芸課とともに、昨年グローバルGAPを取得した（株）OCファーム暖々の里（対象作物：玉ねぎ）の更新支援を行った。同社は、4月13日に県・コンサル会社による内部審査、4月22～23日に審査機関による認証更新審査を受けた。
- 更新審査では、ほ場や選果場の現地確認や作業記録・残留農薬分析結果などの書類確認が行われ、よりハイレベルな取組みを求められたが、2か月程度で更新される見込み。
- 今年度は、管内で「一般社団法人あんずの森」が新たにグローバルGAPの審査を受ける予定であり、地域農業育成室は農業者への指導を継続するとともに、研修会等を通じて管内でのGAP普及を図る。



玉ねぎほ場でのGAP審査

### ■ユリ栽培農家支援にJAが福祉事業所と契約

- 農福連携を進めている地域農業育成室は4月19日、東温市のJA松山市管内シンテッポウユリ農家で、定植作業における連携について、福祉事業所とマッチングを行った。
- 当日は、松山市内のA型福祉事業所（株）ラコッタの利用者3名及び支援員2名がユリの定植作業を体験し、実施可能であることを確認。
- この結果、JA松山市は福祉作業所と作業契約を24日に締結し、25日から施設利用者の就労による作業が始まった。
- 定植作業は、限られた期間に本数をこなす必要があり、この時期、労働力不足に悩む農家も多く、今後、農協ユリ部会を巻き込んだ農福連携に発展することが期待される。



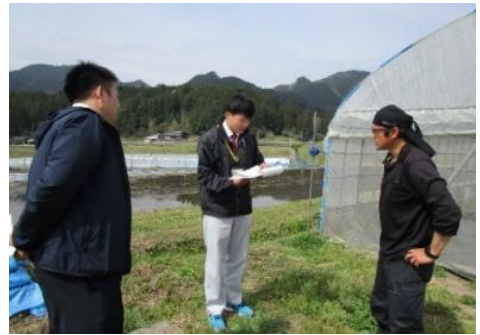
花苗の定植作業での農福連携



## 久万高原農業指導班

### ■サポートチームで新規就農者を支援

- 久万高原農業指導班は4月23日、町、JAと共に新規就農者3名のトマトハウスを回り、経営状況や現在の栽培状況などについて確認。
- これは、農業次世代人材投資事業に係るサポートの一環で、就農5年目までの農家をチームで巡回し、状況確認するもの。
- 現在、トマトの育苗時期であり、新規就農者は「作業は順調、今年も頑張りたい」と意欲をみせていた。



経営状況等について聞き取り

### ■久万山漬の歴史と次世代への技術伝承について

- 久万高原農業指導班は4月23日、かつての久万山漬生産者4名に対して、その歴史等について聞き取りを行った。
- これは、局予算「久万高原の漬物向け野菜産地再興事業」における、久万山漬の技術伝承の取組みの一環として実施したもので、当日は、新聞社の取材も受けた。
- 久万山漬は大根等を原料とする8種類のもので、最盛期の平成4年頃には、売上が1,600万円あったが、生産者の高齢化に伴い、平成27年頃から生産を中止している。
- 継承希望者がいれば、技術伝承したいとの前向きな意見が聞かれたことから、指導班では近年増加している移住農業者等への加工技術の伝承や、その若い感性を活かした漬物開発等を支援する。



久万山漬生産者に対する聞き取り

### ■高い生産性を実現するトマト新規栽培者の確保を目指した学習会

- 久万高原農業指導班は4月10日、久万農業公園研修生6人を対象とした学習会を開催。
- 学習会は、本年度から旬毎に開催することとしたもので、内容については、30年度末に実施した農業公園研修卒業生からの研修制度の充実に係る意見を踏まえ、今回は、時期別の栽培手順の詳細を説明した。
- 研修生からは、土壌水分や葉色の見方など、資料をもとに踏み込んだ意見が多く聞かれた。



作業の手順を学習する研修生

## 中予地方局産地戦略推進室

### ■道後温泉別館「飛鳥乃湯泉」で「さくらひめ」をPR

- 中予地方局産地戦略推進室・地域農業育成室は、GW中、県内外から多くの観光客が見込まれる道後温泉別館「飛鳥乃湯泉」及び生産者の協力を得て、同館内に「さくらひめ」を展示し、さらなる認知度の向上に繋げることにした。
- 4月24日、東温市の「さくらひめ」生産者が普及指導員とともに「飛鳥乃湯泉」を訪れ、

花束を手渡し。『「さくらひめ」の花言葉は「希望」。ぜひ、全国の人に知ってもらいたい』とコメントした。当日は、報道機関による取材も行われた。

○今回の「さくらひめ」は、5月初旬頃まで「飛鳥乃湯泉」2階大広間と1階エントランスに飾られる。



飾られた「さくらひめ」



報道機関による取材

## 南予地方局地域農業育成室

### ■農業法人が菊の周年栽培に取り組む

- 農業法人の「(株)葉月(はずき)」(宇和島市)は、宇和島市三間町で菊の周年栽培を行うため、4月19日にハウス施設(1期工2,352㎡)等の起工式を行い令和2年2月から栽培を開始し、年間192千本の生産を目指す。
- 同社が生産した菊は、親会社である「(株)華月(かげつ)」が、生花の祭壇装飾として活用するほか、全国への出荷も計画している。
- 地域農業育成室では、今後2期工事も計画していることから、各種補助事業のマッチング等を通じて、大規模菊栽培に取り組む農業法人を支援する。



整備中のハウス建設予定地

### ■宇和島市吉田町の再編復旧の支援

- 宇和島市吉田町の白浦地区(4月15日)、法花津地区(4月16日)における柑橘園地の再編復旧実施について、事前の地元説明会等で示された要望等を基に、県から再編復旧の整備構想図を示し、関係農家との協議がなされた。
- 両地区とも出席者の全員の同意を得られ、欠席者についても、大半がアンケート等で再編復旧を希望しており速やかに個別に同意を得ることとしている。
- 今後は、白浦、法花津両地区を1地区(玉津地区)として事業化に向け国との協議を進めることとしており、地域農業育成室では、地元をはじめ関係機関と連携して事業計画の作成(営農計画等)を支援する。

## 鬼北農業指導班

### ■伐採林地を利用した栗の大規模高収益栽培技術の確立へ

- 鬼北農業指導班は、地元農業法人と、伐採林地を利用した栗の大規模高収益技術の実証を計画し、新規事業「普及組織先導型革新的技術導入事業」の採択を受けた。
- 4月22日に県庁で開催された事業審査会では、担当普及指導員が、大規模な園地で積極的な



栽培から、高い収益を目指す次の実証計画等を説明。

- ・排水性の良い伐採林地において園内道を整備した大規模（1.4ha）栽培モデル園の設置
- ・標高差100mの園地を一度に灌水できる山頂での貯水による自動点滴灌水システムの導入
- ・雑草が極端に少ない林地跡を利用したナギナタガヤによる雑草抑制技術の実証等

○指導班は、事業内容を事前に鬼北町にも説明し、同町からも6月議会の補正予算での追加助成が予定されており、こうした技術の導入、確立により栗産地の再興に関係機関等と取組むことにしている。



県事業審査会の様子



鬼北町への実証計画の説明

## 愛南農業指導班

### ■就農候補者の就農準備研修スタート

- JAえひめ南は4月15日、南宇和営農経済センター管内において「えひめ次世代ファーマーサポート事業」を活用し、就農準備研修をスタートさせた。
- 就農を希望している2名（30代男性、40代男性）を受け入れ、河内晩柑・甘夏等のかんきつをメインに研修。
- 就農準備研修実施については、指導班が栽培技術や経営管理等の指導に当たるなど研修の一翼を担い、関係機関一体となって研修生の就農に向けて支援する。



河内晩柑を収穫する研修生

### ■トンネル栽培の効果確認、春どりブロッコリー収穫始まる

- 指導班が設置している「春どりブロッコリー」の現地実証圃の収穫が4月13日から開始。
- 高価格で取引される端境期（4月）の収穫を狙って、厳寒期のトンネル被覆栽培試験の結果、寒気による生理障害の防止、約2週間の収穫の前進化も相まって、高単価での出荷につながることを確認。
- 今後は、講習会等で本試験結果を報告し、省力かつ安定生産技術の定着に向けて支援する。



試験区（写真左）では収穫済  
対象区（写真右）は未収穫

## 南予地方局産地戦略推進室

### ■「えひめさんさん物語 開幕祭」で河内晩柑をPR

- 4月20日、新居浜市山根公園で開催された東予東部圏域振興イベント“えひめさんさん物語 開幕祭”に、南予地域の9市町が出店し、特産品のPR販売等を行った。
- これは、主催である同イベント実行委員会から南予の各市町に対し、豪雨災害からの復興支援の一環として出店依頼があり、実現したもの。
- 当日は、ブラッドオレンジなどのかんきつをはじめ、梅や栗、きじ肉等を使った加工品を販売し、その多くが正午過ぎには完売する盛況ぶりだった。
- 愛南町のブースでは、産地戦略推進室が、果皮の加工利用の一環として町と連携して試作した河内晩柑ジュース（2種類）を配布し、味や機能性成分の認知度と購買意欲などについてアンケート調査を実施。
- 調査結果などを参考に改善したジュースを、6月に台湾でのイベントで販売する予定。



河内晩柑ジュースの配布

### ■味噌製造業者との連携による新たなうめ加工品が誕生

- 松野町でうめ栽培に取り組む新改和也氏が、宇和島市の(有)宮居醤油店（味噌・醤油の製造業者）と連携し、新たなうめ加工品として「うめ味噌」を開発し、道の「虹の森公園まつり」（600円/150g税込み）などで販売を開始した。
- この商品は、新改氏が栽培した完熟南高うめに、麦みそなどを合わせた調味料で、産地戦略推進室が打ち合わせから立ち合い、商品化に向けて支援し、新改氏自身が首都圏の食品展示会でバイヤー等のアドバイスを参考にブラッシュアップして完成させたもの。
- 新改氏は、加工原料の確保のため、新たな農地の借り受けを希望しており、加工品の開発にも意欲的。産地戦略推進室は、町と連携して新たな商品の開発や販路の開拓を支援する。



うめ味噌

## 西予農業指導班

### ■豪雨災害の復興に向けてきゅうりとなすの選果機が再稼働

- 平成30年7月豪雨で被災した、JAひがしうわ野村農産センターのきゅうり・なす選果施設が、グループ補助金事業を活用した改修を終え、4月19日から本格的にきゅうりの選果を開始した。
- 昨年は、選果場の損壊で手選果による出荷となったことから、多くの生産者は作付面積を減らし、生産量は前年比の約80%と大幅に減少した。
- 今年産きゅうりは、被災前の生産量を上回る1,100



復旧落成式と新選果機



tを見込んでおり、野菜生産の完全復興に向けて意気込みを見せている。  
 ○今後、栽培面積の約70%を占める露地きゅうりの定植が5月から始まり、生産者の意欲も高いことから、安定生産技術の取組を支援していく。

## 八幡浜支局産地戦略推進室

### ■富有柿香港輸出関係業者が再度の産地訪問で輸出継続を要望

- J A愛媛たいき富有柿輸出を仲介した<sup>ひつ</sup>畢氏(マレーシア・KHAISHEN社の日本法人・グローウェルジャパン株式会社の取締役)と香港の仲卸兼小売業者社長らが、4月1日に内子町の柿産地を訪問し、ブランド戦略課、大洲農業指導班および産地戦略推進室が生産者代表およびJ A生産・販売担当者とともに対応した。
- 業者は、昨年の香港初輸出で品質・客の評判とも秀でていたことから、取り扱い品種や数量の拡大を望んでいる。
- 柿部会も昨年の輸出成果に関心を寄せており、大洲農業指導班による冷蔵調査成果等も伝えて意見を交わした結果、今年産も輸出に向けて関係者が情報共有しながら連携を続けることとなった。
- 指導班と当室は、冷蔵貯蔵技術や香港輸出の支援を継続している。香港側の次回産地訪問は、9月頃の予定。



出荷段ボール箱は「白が綺麗で日本らしい  
 図柄は香港市場でも目を引く」と絶賛



園地視察では、剪定・粗皮削りなど冬季管理状況への  
 関心・評価も高かった

### ■川田温州の産地化に向けた取組み

- 18日、産地戦略推進室は、川田温州の栽培講習会をみかん研究所及び八幡浜市内圃場で開催。
- 当日は、川田温州生産者の13名が出席し、みかん研究所の試験結果報告及び生産者の園地を巡回し、昨年の反省と今後の対策について研修を行った。
- 隔年結果性が特に強いため、栽培管理技術の早期確立に向け実証及び研究を今後も継続して行うこととした。
- これまで時期毎に研修してきたが、今後は安定生産技術確立・産地化を目的とする、川田温州生産推進協議会として活動を行うこととした。





## ■甘平の輸出について検討

- 22日、産地戦略推進室は、甘平の台湾輸出についてブランド戦略課、JAにしうわと検討。
- 台湾で使用できない農薬があるため、防除暦を参考に、代替剤・出荷時期・愛媛 Queen スプラッシュの規格・輸出に対するメリットについて意見を交換し今年産の対策を協議した。
- 昨年産は2名が輸出に取組み、今年新たな生産者の掘起し、輸出の優位性について検討を重ねることになった。



■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543